平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	臨床のプロセスを重視した症例基盤型小グループディスカッションの導入	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	医学部 医学教育センター	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	清水 郁夫 (医学教育センター)	
取組の目標	医学部の臨床実習を見学型から診療参加型へと転換させ、卒業段階での臨床能力を高める。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>【活動】</p> <p>1. 目標を達成するために、本学の臨床実習環境で学習効果を挙げる小グループディスカッションフォーマットについて情報収集した。</p> <p>2. 本学教員のニーズを踏まえ、臨床系教員が取り組みやすいフォーマットを独自に開発し、内科系2科に同フォーマットの採用を働きかけた。</p> <p>【成果】</p> <p>3. 4-5年次の臨床実習において内科系2科で同フォーマットに基づいたチュートリアルが開始された。2週間に1回、5名程度の学生を対象とした60-90分のチュートリアルを通して、1症例の推論過程を学んだ。学生の事後アンケート(回答数99)では、95人が「教育効果が高まった」と、93人が「自主的に学習を進める意欲が高まった」と回答した</p> <p>4. 導入による効果を研究会で報告し、また質疑応答を通してさらなる改善のための情報収集を行った。</p>	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	<p>a. 達成できた</p> <p>㊦ おおよそ達成できた</p> <p>c. 半ば達成できた</p> <p>d. おおよそ達成できなかった</p> <p>e. 達成できなかった</p>	<p>(そう評価する理由)</p> <p>複数の異なる内科系診療領域に働きかけて、本様式を導入し定着させることができた。既に類似した形式の症例討議を導入している領域も含めると、内科系全科で診療参加型の実習を実施することになる。</p> <p>(今後の展望)</p> <p>本取組で得られた知見を活かし、他の診療科にも導入を働きかける。そのために、内科系以外でも適合するようにフォーマットを修正することを検討する。</p>